

出題分析			
試験時間	75 分	配点	150 点
		大問数	3 題
分量 (昨年比較)	[減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]
<p>【概評】</p> <p>例年通り大問 3 つで構成され、設問数も昨年とほぼ同じであった。出題形式は、昨年の 2/5 全学部日程でみられた資料読解問題が扱われた点が特徴的であった。また、語句記述問題は昨年と同数であり、正誤判定問題が昨年より大きく減少した一方で、年代判定問題が増加した。例年通り各時代から満遍なく出題され、一昨年にも出題されたヘレニズム時代に関する大問がみられた。また、昨年に比べて文化史関連の設問が減少し、政治史に関する出題が目立った。判断に迷ったり解答に時間を要する設問が増えたため、全体的な難易度は昨年よりやや難化したといえる。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	ヘレニズム時代	<p>設問 4. 解答としては 4 を選ぶしかないが、この選択肢の内容は設問文の「西欧での受容」に関する記述として適切だろうか。プトレマイオス朝に関する内容を「西欧」として扱うのはさすがに強引だろう。設問 6. やや難問だが、消去法を用いて正答を導くことは可能。イスファハーンの世界史は古く、都市の起源はイランのイスラーム化以前にまで遡ることができる。ブワイフ朝の領域にイスファハーンが含まれていることを資料集等で確認しておきたい。設問 8. 2: ソリドゥス金貨はコンスタンティヌス帝の時代に鑄造が始まった。設問 11. 資料読解にやや時間を要しただろう。Y: パルティアは「オアシスの道」の交易路をおさえたが、「草原の道」は支配していない。設問 12. (イ): シル川と混同しないようにしたい。(エ): やや難問。マニ教と混同しないようにしたい。</p>	やや難

II	近世欧米史	設問 1. (m) : 独立戦争における植民地側の勝利が確定した戦闘はヨークタウンの戦いである。独立戦争の最初の戦闘となったレキシントンの戦いや、フランス参戦のきっかけとなったサラトガの戦いもあわせて覚えておきたい。設問 2. (c) : 設問文の「このとき」がどの時点を指すのかははっきりしない。立法議会では当初はフイヤン派が多数を占めたが、設問文に「共和主義者」とあるためジロンド派が正答となる。	標準
III	冷戦とアジア諸地域の歴史	設問 1. (b) : やや難問。重慶と迷った受験生がいただろう。共産党が 1949 年 4 月に国民政府の首都南京を占領すると、国民党勢力は広州や重慶に逃れた。設問 6 : やや難問。「会議」を含めて漢字 8 字で」という指示を見落とさないように注意したい。設問 8. (b) : 中ソ対立により中ソ技術協定が破棄されると、中国は独自開発によって核実験を成功させた。設問 9. (a) : 大韓民国は日本との交戦国ではなかったため、また、中華民国は中国代表権問題を理由にサンフランシスコ講和会議に招かれなかった。設問 10・設問 13 : かなり細かい年代判定が求められたため、苦戦した受験生もいただろう。インドネシア共和国は、1945 年に独立を宣言したが、これを認めないオランダとの戦争を経て、1949 年に主権を獲得して正式に独立を果たした。	やや難

合格のための学習法

同志社大学の入試世界史は、標準レベルの知識で解答できる設問が比較的多く、極端な難問は少ない。それゆえ、ケアレスミスによる失点をいかに防ぐかがポイントとなる。例年、文化史関連の出題が目立つ傾向にあるため、過去問や資料集等を用いた対策を万全にしたい。また、語句記述問題も毎年出題されるため、漢字用語を正確に書く練習をするのはもちろんだが、カタカナ用語の表記にも気を付けたい。近年、同志社大学は入試講評で受験生のカタカナ表記に対する注意喚起を行っている。判別できない字は誤答とみなす可能性も示唆しているため、油断しないようにしたい。加えて、同志社大学の入試は解答用紙が独特であるため、特に記号問題は解答欄を間違えないように細心の注意を払ってほしい。